

火災・救急・救助 119

# まとい 纏 No.395



富良野広域連合富良野消防署占冠支署 ☎ (56) 2119

## 住宅用火災警報器 10年を目安に交換を!

住宅用火災警報器の設置が義務化され10年以上が経過しています。住宅用火災警報器は設置から10年を目安に交換することが推奨されており、設置が必要な箇所は各市町村の火災予防条例によって定められています。富良野広域連合の火災予防条例では、寝室・階段（2階に寝室がある場合）が該当となるため、現在設置している箇所が正しいか確認を行って下さい。また、まだ設置出来ていない

### 救急出場状況 (7月分)

交通事故	4件	(3人)
一般負傷	6件	(4人)
急病	5件	(4人)
7月計	15件	(11人)
累計	78件	(70人)
※ ( ) 内は搬送人員		



#### 住宅用火災警報器 | 点検の方法

テストは、本体のボタンを押すか、付属のひもを引いて点検します。正常な場合、正常を知らせる音声や警報音が鳴ります。詳しくは説明書をお読みください。

<音が鳴らない時は>次のことを確認しましょう。

- ・電池切れではありませんか?
- ・電池はきちんとセットされていますか?

上記の確認をしても鳴らない場合は、住宅用火災警報器本体の故障が考えられます。本体の交換をしましょう。



い世帯があれば、この機会にぜひ設置して頂くようお願いいたします。そして、普段から点検を行うよう心掛け、万が一の時に大切な命を守るよう備えておきましょう。ご不明な点等ございましたら占冠消防指導係までご連絡ください。

## 地域とともに コミュニティ・スクール情報 ~占冠中学校~

占冠村教育委員会 ☎ (56) 2182

### コロナ禍を乗り越えて、たくましく

令和3年度がスタートして2学期を迎え、コロナ禍でありながらも「子どもたちの学びを止めない」を合い言葉に、滞りなく教育活動を継続することができています。

1学期に予定していた学校行事については、5月には3年生の修学旅行、6月には中体連陸上大会・球技大会、7月には体育祭、1年生の炊事遠足、2年生の宿泊研修など、感染症防止対策を踏まえながら無事に終了することができました。特に中体連では、無観客開催でありながらも大会を実施することができ、生徒達は各試合に堂々と臨み、日頃の練習の成果を十分に発揮しました。

家庭科や美術科の授業における山菜教室や陶芸教室も、地域支援ボランティア講師の方々の指導により、専門的な知識や技術を伝授していただきながら、対話的で深い学びにつなげることができました。

2学期の学校行事等においても、北海道からの延期や中止要請等がなければ、基本的な感染症防止対策の徹底はもとより、参観者の入場制限等の協力を得ながら、計画通り実施する予定です。9月4日には第75回学校祭を予定しており、生徒達は1学期後半より学年創作発表に向けて主体的に準備活動を行っています。

コロナ禍を乗り越えて、明るく元気に活動できることの有り難さを感じながら、感謝の気持ちを忘れずに、学校と地域が一体となって、魅力あふれる教育活動を推進していきたいと思っております。



## 『ケアラー』の孤立化 周囲に支援を求めよう

こんにちは  
保健師です

『ケアラー』とは、介護や看病、療育が必要な家族や近親者を無償で支援する人のことです。日本では増加傾向にあり、高齢化社会が進むとともにケアラーも増えていくことが予想されます。今回はケアラーについてのお話です。

■ケアラーのケア対象者  
ケアラーのケア対象者は、高齢者に限りません。障がい者や難病患者、病児・障がい児、アルコール依存症など広範囲にわたります。なんらかの事情により、日常生活を送ることが難しくなった対象者の支援を行う人がケアラーです。

■ケアラーが抱える課題  
ケアラーが抱える課題は、近年はヤングケアラーが増えてきた現状もあり、介護される側だけではなく、介護をする立場のケアラーにもさまざまな問題が発生してきています。

「長時間の介護によるストレス」  
ケア対象の多くは父母や祖父母、配偶者などの家族で、1日中付き添っている場合、自由な時間がとれず、ストレスだけが蓄積していき、子どもが育つ環境が保たれないという状況が生まれる可能性があります。

「社会的孤立」  
ケア対象者の介護のため、定職につけないというケアラーも珍しくありません。そのため、経済的負担や社会的なつながりが断たれ、社会から疎外感を感じる人もいます。よく聞かれる『介護うつ』は孤独感からくることが多いと言われています。

「ヤングケアラーの増加」  
増加の要因は晩婚、高齢出産が進む中で子どもが成人する前に親が介護を必要とする状態になったり、仕事で忙しい両親に代わり、子どもが祖父母の介護を担うケースなどがあります。

「介護疲れが原因の事件」  
介護疲れが原因で起きた事件は年々増加傾向にあります。事件の特徴は、被害者だけではなく、加害者側にもなんらかの健康問題があり、一人での介護していたケースが多く見られます。最悪な事態を避けるために、何らかの支援を受けることが鍵になります。

■周囲に支援を求めよう  
日本では介護が必要になった際に「家族が面倒を見るのが当たり前」という考え方が根深くありますが、家族だけで介護を続けることには限界があります。介護する側・される側になることは誰しもあることです。自分自身にできることを想定して、普段から家族と介護が必要になったときはどうするか、どこに相談すればいいのかなどを話し合ったり、調べておくことをお勧めします。



相談先  
占冠村地域包括支援センター(占冠村役場福祉子育て支援課)  
☎(56)20202